

toVO トウゴ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 2



NO. 015

2013.06.11

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。



www.tovo2011.com



インタビュー

今号のご家族 ▶ 堀内 英治さん・志津江子さん・真莉子さん ※英治さんは、残念ながら入院中の為当日は一緒に撮影ができませんでした。
えいじ しづえこ まりこ
撮影場所 ▶ 黒石市こみせ通り(黒石市)

●2011年3月11日のこと、覚えていますか? ▶ 志津江子さん「会社で仕事をしていました。みんな一斉に外へ出たんです。様子を見て、また作業に戻ったものの、余震は来るし、停電で機械も動かないし、その日はそれで解散しました。」 真莉子さん「私は自動車の教習所にいました。室内で、ゲームみたいに画面でやるシュミレーションをしてたんですが、揺れてる?と思ったら、その画面が3面の左、右、中って消えていったんですよ!(笑)揺れが長かったのが不安だったんですけど、その後の教習も普通にやることになって…『こういうこともあるんだから体験しておけ!』って、真っ暗なコースを走らされました(笑) 揺れがおさまった後も、なんかこう、ユラユラする感じがして、地震酔いがしばらくありました。家に帰ってきて、物が倒れてたりとかはそんなになくて安心しました。マリアって名前の犬を飼っているんですが、怪我もなくして無事だったし。」 志津江子さん「居間のテレビが首振ってたよね。」 真莉子さん「ああ!変な方を向いてたよね!」 ●その日の夜はどう過ごしましたか? ▶ 真莉子さん「ご飯はカップラーメンでした。あつてよかったわ〜と(笑)」 志津江子さん「居間の電気ストーブが消えたので、灯油のストーブを引っ張り出してきて、灯りは携帯用のランプを使ってみました。移動する時は携帯電話の灯りで。」 真莉子さん「寒かったし、20時くらいにはもう寝たよね。トイレの便座も冷たくて、キャッ!て(笑) 携帯電話のワンセグとかラジオで情報を得ようと思ったんですけ

ど、あんまり電池がなくて、そんなに使えなかったんです。でも、この辺り全域が停電してるみたいだし、凄く大変なことになってるとことは感じました。」 ●震災後、何か変わりましたか? ▶ 真莉子さん「一応、ベッドの近くに懐中電灯は置いてあります。あと、地震があつて連絡を取り合う時、携帯電話が全然繋がらなかったんですよ。あんまりダメだから一度機種変更をしました。でも、いろいろあつて、結局は元の会社に戻したんですけど…。ああいう時こそ電波とかしっかりして欲しいと思いますね。」 志津江子さん「食料とか電池をちゃんと買って置いて置かなきゃなと思いました。地震からしばらくの間は、近所のスーパーが凄く混んでいて、買い物が大変だったんです。やっぱり皆同じなんですね。」 ●10年後は? ▶ 真莉子さん「うーん、どうだろう…10年後…お母さん…あれ?今50?あれ?10年後って何歳?(笑)」 志津江子さん「皆、変わらず元気でいたいと思います(笑) 今、お父さんが入院中なので、10年後はお父さんも元気で、家族で旅行に行きたい。」 真莉子さん「うんうん、いいね。どの辺に行きたい?」 志津江子さん「鹿児島!」 真莉子さん「鹿児島!? (笑) 宮城県や岩手県、福島県は行ってらよね。あ、福島県の五色沼にも行ったことあるんですよ。ポート漕いだんでですけど、キレイだったな〜!お父さんと2人で乗って、うまく漕げなくてめっちゃ怒られたけど(笑)」 志津江子さん「東北とか、東側は行ったから、今度は西側に行きたいな。」 真莉子さん「そうだね。皆で行きたい〜!」

定期購読のお申し込み 1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付金)/1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール (info@tovo2011.com) にてお申し込みください。シーズン1(No.000~No.011/12号セット)は、1,500円で販売中です。

編集後記 はじめまして、坂本です。震災当時は私も教習所にいました。ロビーで揺れて、向こうの広いところで男子が怪れを利用してバランスゲームバトルを繰り広げていたのが何よりも印象に残っています。今回の取材、真莉子さんは高校の同級生、耳が不自由な志津江子さんのお話しは、真莉子さんを通して手話でやりとりしました。落ち着いた雰囲気にも母の貴様を感じ、手で会話する二人、素敵だなと思いました。【坂本小雪】

東日本大地震・津波遠見チャリティー

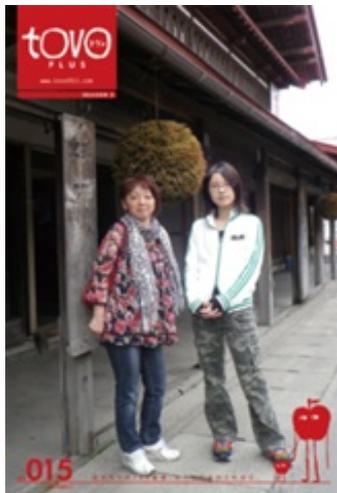


2011年6月~2013年4月25日まで

¥1,463,136

を「あしなが東日本大地震・津波遠見基金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、あしなが育英会「あしなが東日本大地震・津波遠見基金」へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶堀内 英治さん・志津江子さん・真莉子さん
撮影場所▶黒石市こみせ通り（黒石市）

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶志津江子さん「会社で仕事をしていました。みんな一斉に外へ出たんです。様子を見て、また作業に戻ったものの、余震は来るし、停電で機械も動かないし、その日はそれで解散しました。」

▶真莉子さん「私は自動車の教習所にいました。室内で、ゲームみたいに画面でやるシュミレーションをしてたんですが、揺れてる？と思ったら、その画面が3面の左、右、中って消えていったんですよ！（笑）揺れが長かったのが不安だったんですけど、その後の教習も普通にやることになって...『こういうこともあるんだから体験しておけ！』って、真っ暗なコースを走らされました（笑）揺れがおさまった後も、なんかこう、ユラユラする感じがして、地震酔いがしばらくありました。家に帰ってきて、物が倒れてたりとかはそんなになくて安心しました。マリアって名前の犬を飼っているんですが、怪我もなくして無事だったし。」

▶志津江子さん「居間のテレビが首振ってたよね。」

▶真莉子さん「ああ！変な方を向いてたよね！」

●その日の夜はどう過ごしましたか？

▶真莉子さん「ご飯はカップラーメンでした。あってよかったわ〜と（笑）」

▶志津江子さん「居間の電気ストーブが消えたので、灯油のストーブを引っ張り出してきて、灯りはキャンプ用のランプを使ってました。移動する時は携帯電話の灯りで。」

▶真莉子さん「寒かったし、20時くらいにはもう寝てたよね。トイレの便座も冷たくて、キャッ！と（笑）携帯電話のワンセグとかラジオで情報を得ようと思ったんですけど、あんまり電池がなくて、そんなに使えなかったんです。でも、この辺り全域が停電してるみたいだし、凄く大変なことになってるということは感じました。」

●震災後、何か変わりましたか？

▶真莉子さん「一応、ベッドの近くに懐中電灯は置いてあります。あと、地震があって連絡を取り合う時、携帯電話が全然繋がらなかったんですよ。あんまりダメだから一度機種変更をしました。でも、いろいろあって、結局は元の会社に戻したんですけど...。ああいう時こそ電波とかしっかりして欲しいと思いますね。」 ▶志津江子さん「食料とか電池をちゃんと買って置いて置かなきゃなと思いました。地震からしばらくの間は、近所のスーパーが凄く混んでいて、買い物が大変だったんです。やっぱり皆同じなんですね。」

●10年後は？

- ▶真莉子さん「うーん、どうだろう...10年後...お母さん...あれ？今50？あれ？10年後って何歳？(笑)」
- ▶志津江子さん「皆、変わらず元気でいたいと思います(笑) 今、お父さんが入院中なので、10年後はお父さんも元気で、家族で旅行に行きたい。」
- ▶真莉子さん「うんうん、いいね。どの辺に行きたい？」
- ▶志津江子さん「鹿児島！」
- ▶真莉子さん「鹿児島！？(笑) 宮城県や岩手県、福島県は行ってるよね。あ、福島県の五色沼にも行ったことあるんですよ。ボート漕いだんですけど、キレイだったな～！お父さんと2人で乗って、うまく漕げなくてめっちゃ怒られたけど(笑)」
- ▶志津江子さん「東北とか、東側は行ったから、今度は西側に行きたいな。」
- ▶真莉子さん「そうだね。皆で行きたい～！」

【編集後記】はじめまして。坂本です。震災当時は私も教習所にいました。ロビーで揺れて、向こうの広いところで男子が揺れを利用してバランスゲームバトルを繰り広げていたのが何よりも印象に残っています。今回の取材。真莉子さんは高校の同級生、耳が不自由な志津江子さんのお話しは、真莉子さんを通して手話でやりとりしました。落ち着いた雰囲気にも母の貫禄を感じ、手で会話する二人、素敵だなと思いました。【坂本小雪】

【寄付総額】2011年6月～2013年4月25日まで、『¥1,463,136』を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。